

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191600036		
法人名	株式会社アイランドジー・アイ		
事業所名	アイランドジー・アイ小田グループホーム		
所在地	岐阜県瑞浪市北小田町2-285		
自己評価作成日	平成25年1月21日	評価結果市町村受理日	平成25年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2012_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2191600036-00&PrEfCd=21&VerSi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成25年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 脱 廃用性を目指すグループホーム	2. 口腔ケアに取り組むグループホーム	3. 文化教室があるグループホーム
---------------------	---------------------	-------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と共に職員は「心ある介護」を大切に、様々な日常生活の場面で利用者ができる事を増やす支援をしている。介護計画に日々の機能訓練を取り入れ、ベッド上での可動域訓練や平行棒を活用した歩行訓練やエアロバイクによる筋力トレーニングで身体レベルの向上につなげている。日常的な生活のなかで楽しみや役割として、レストランや喫茶店での外食や食材の買物を、車イスの利用者も一緒にやっている。ボランティアの協力を得て、絵手紙・書道・生け花教室等を日常のプランに取り入れている。利用者や家族の承諾を得て事業所の日々の生活と共にブログで紹介し、一般市民からの意見も聞けるように開かれた事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会との交流が確保されるようことを目的として、積極的に地域へ出かけるよう目標を設定して実施している。	管理者は採用時に理念の説明も含めて、冊子として職員に手渡し、日頃の介護に活かすよう会議等で伝えている。職員はミーティングで話し合い、日々の生活の中で利用者の能力を活かす事で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	何を想定しているのか具体的な内容がわからないが、利用者や職員が地域住民としての日常の交流があるかと訊かれれば、それは望めない。せいぜい散歩中に交わすあいさつ程度である。	自治会に加入しイベントや祭り行事に利用者が職員と一緒に参加している。中学生の職場体験を受け入れたり、地域のボランティアが継続的に訪問している。地域の店を利用し買い物をする事により地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の回覧板にグループホーム便りを回覧してもらうようにして頂き始めた。関心を持って頂くことから始めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ボランティアの紹介を受けた。或いは地域交流センターの有効な利用方法でアドバイスを受けた、などの実績は少しはある。	会議にて事業所の現況報告や情報交換を行い、交流センターの利用に向けた提案を受けている。地域役員・家族・行政職員も含めて会議を行っているが、去年は3回の開催であり、隔月の開催ができていない。	地域資源の活用について様々な提案を受けて、利用者の外出先に取り入れているが、隔月に開催し事業所の運営に活かせるような会議となることを希望したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	評価項目にあるところの役所担当者とうとういった協力を想定しているのかが思いつかない。	管理者は介護保険策定委員等の民間事業者代表として各種の委員に就任しており、市の担当者と色々な問題を相談している。行政への手続き代行時に相談したり、逆に担当者から助言を求められる事もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は存在しないが、過去の経験から玄関のオートロックはしている。	月1回のミーティングにて身体拘束をしない為の再確認や勉強会を行っている。二階の事業所の出入り口は鍵もなく、フロアーや廊下は自由に行き来している。夜間は2時間毎に居室を巡視する事でベッド柵は使わず、転落防止を注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常時意識はしている。		

アイランドジー・アイ小田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な利用者やご家族に成年後見制度の紹介が可能な程度の知識は持っているし、必要時には支援できる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	そのようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱、苦情受付は窓口を設けているし、意見を頂けば検討する姿勢はある。	月1回送付する手紙に添えて家族の意見を聞いたり、家族アンケートを実施し要望を聞いている。家族会が結成されており定期的な開催で意見を聞いている。家族が参加しやすい曜日にして、ほぼ全家族が出席している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のリーダー会議、全体会議、勉強会がある。	職員の意見を取り入れ、体操の内容を変えたり、平行棒やエアロバイクを購入し歩行訓練や筋力低下の防止に努めている。ミーティングやリーダー会議にて意見や要望を出し、全員で話し合いや検討をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実践できている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議、リーダー会議が職員としてのトレーニングの場である。また、外部研修の案内はその都度している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入段階は全職員が特別に注意して必要な情報収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入段階は特別に注意して必要な情報収集・交換に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これは導入段階ではなく入所審査段階のことでの対応のことか？		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GHであるから当然のことだしできている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	GHであるから当然のことだ。ただし、設問の「共に」の解釈がわからないが、家族の本音を知った上で家族を巻き込むことの方が大切だ。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どこまで想定して設問を設けているのかがわからないが、馴染みの場所や人との関係を馴染み続けられるようにしていく努力はできていない。	馴染みの店へ食事の買い物や喫茶店の外出を計画的に実施している。本の好きな利用者には図書館へ付き添ったり、地域交流センターに出かけ、趣味のあう友人と接点を持ち、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	当然のことだしできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	求められれば内容によっては相談にも載る姿勢はある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	当然のことだしできている。	利用者の隣に座って同じ目線で、わかりやすい言葉かけで、ゆっくりと時間をかけて思いを聞くようにしている。今までの生活歴から思いを引き出したり、レクリエーションの場や外出時の言葉を大切にして支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	当然のことだしできている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	当然のことだしできている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	当然のことだしできている。	毎日の日課のなかで生活目標を定め、利用者のできることや具体的な支援目標を見やすく一覧にして工夫した介護計画を作っている。家族意見や要望を事前に聞いたり、必要時は医師も含めて計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	当然のことだしできている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別対応には職員配置上限界もあるが、なるべく要望を叶える姿勢はある。		

アイランドジー・アイ小田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当然のことだしできている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当然のことだしできている。	殆どの利用者が協力医をかかりつけ医としているが、入居前からのかかりつけ医を受診する利用者もいる。かかりつけ医や専門医の受診時は職員が付添う事もあり、協力医と連携し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当然のことだしできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事前に病院関係者との関係づくりとあるが、後方支援病院MSWなどと日頃の関係作りなどはしていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対象者は1名しかいないが、当然そのつもりでいる。	入居時に事業所の方針を伝えているが、状況に合わせ医師と職員が連携しその都度、家族も含めて話し合っている。看取りの場所や看取りの方法について、利用者と家族の意向を尊重し、最適な方法となるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期訓練はしているが、実践力とまではいっていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期訓練はしているが、実践力とまではいっていない。地域との協力体制の約束事などはない。	夜間想定避難訓練を役割分担し実施している。スプリンクラー設備を任意に設置し、火災に対する安全性を確保している。非常食や水を備蓄している。非常時の地域住民の協力や訓練時に住民の参加がない。	非常時に利用者を避難させるためには地域住民の協力が欠かせない。避難訓練に地域住民の参加が得られるように、前向きな働きかけを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ある程度の対応はしているしできている。	これまでの生活を尊重し、現在の生活の過ごし方の意向を把握するために、側に寄り添い声かけに注意している。廊下から居室内が見えないように暖簾をかけたり、行事写真は利用者や家族の許可を得て掲載している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必要な方には意思確認をするようにはしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本当に設問の内容が必要な方であればそのようにするつもりはあるが、ある程度の日課はこちらで決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	そのようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる人には役割参加いただいている。	利用者の能力に応じて、時間がかかっても調理の一部分を担い、配膳や後片付けを職員と一緒にしている。職員は利用者と一緒に座り必要な人には食事の説明をしながら、楽しい雰囲気ですべてしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当然のことだしできている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	当然のことだしできている。		

アイランドジー・アイ小田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	当然のことだしできている。	排泄はトイレで行う事を基本とし、必要に応じて夜間もトイレ誘導している。自立に向けた個別の排泄プランに基づき行っている。水分摂取量を記録し自然排泄を促す支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	当然のことだしできている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	こちらの日課として頻度時間は決めさせてもらっている。目下無理強いすることなく出来てはいる。	夕方の入浴を基本としている。身体状況にて機械浴は階下の通所施設を利用している。高齢者用のユニットバスは職員が1対1で介助し安全への配慮をしている。季節で柚子・菖蒲湯等を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	設問にある生活習慣との認識のずれがあるかもしれないが、本来の生活習慣を意識しているし体調の観察もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	当然のことだしできている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	割と努力している方だと思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	割と実現している方だと思う。	普段から買物・散歩・喫茶店等に出かけ、希望者は外食も週に1回行っている。外出時は家族が付き添うこともあり、職員2名が利用者の希望で2組に分けて行っている。季節により花見や行楽地に出かけ、日本昭和村・花フェスタ・初詣等に出かけている。	

アイランドジー・アイ小田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方には認めてはいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	それが必要な方にはそのようにさせるが、今は居ない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫はしているつもりであるが、個々の入居者にとって居心地が良いとは思わない。	フロア全体が明るく室温や換気に配慮し、利用者が生けた季節の生け花や編み物作品を陳列している。自宅と同じような木の椅子やテーブルを置き、生活感を出している。利用者が作成した季節の絵手紙や書道の作品を飾り、居心地良い雰囲気としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースしかないので思い思いとはいかないだろうが、これで良いと感じている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ある程度工夫はしているし、家族への働き掛けもしているが十分ではない。ただし、これ以上の依頼をするつもりはない。	ベッド以外は利用者が使い慣れた生活用品の筆筒・花・写真等思い出の品を自由に持ち込んでいる。部屋の入り口の表札は利用者の希望する名称としたり、季節の花を飾り利用者の思いを大切に工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在は自立度、理解度の高い入居者が多いが、これから試される部分だと思う。		